厚生労働省科学研究費補助金（研究事業）
分担研究報告書

被災地における心不全患者の在宅療法に関する研究
―植込型補助人工心臓と在宅療法―

研究分担者：中谷　武嗣　国立循環器病研究センター移植部　部長

研究要旨
植込型左心補助人工心臓（LVAS）の在宅治療を積極的に進め、在宅管理における課題について検討した。そのなかで、抗凝固療法の調整とともに、ドライブライン感染への対応が重要であることが示された。

A．研究目的

末期心不全患者に対する治療選択として連続流植込型左心補助人工心臓（LVAS）が心臓移植へのブリッジとして保険償還された。この植込型 LVAS を装着した患者は、在宅療法が可能となったが、在宅での管理を安定して行うためには、入院管理中には医療者により行われてきた種々の管理を患者本人及び家族による介護者で行う必要がある。今回、植込型 LVAS 装着患者の在宅管理について検討した。

B．研究方法

対象は心移植へのブリッジとして当センターにおいて 2011 年５月以降に植込型 LVAS を装着した 39 例中、在宅管理となった症例における在宅管理について検討を行う。

C．研究結果

在宅管理患者のうち 16 例 54 回の再入院を認め、その理由は、ドライブライン感染が 45%と最も多く、脳血管障害は 15%であった。

D．考察

LVAS 装着患者の在宅管理において、コアグチェックによる抗凝固療法の調整を行なうことで、脳血管障害による再入院例は少なくなっている。しかし、ドライブライン感染による再入院例が多く、創部管理法の検討が必要である。

E．結論

植込型 LVAS 装着患者における在宅管理においては、抗凝固療法の調整とともに創部管理が重要であった。

F．研究発表

１．論文発表

Iwashima Y, Yanase M, Horio T, Seguchi O, Murata Y, Fujita T, Toda K, Kawano Y, Nakatani T: Impact of pump replacement on outcome in advanced heart failure patients with left ventricular assist system. Artificial Organs 37(7):606-614, 2013

中谷武嗣、秦　広樹、藤田知之、小林順二郎、村田欣洋、瀬口　理、簗瀬正伸、堀　由美子、和田恭一、植田初江、宮田茂樹、内藤博昭：心臓移植および補助人工心臓の経験。胸部外科 66(1): 63-67, 2013

2. 学会発表

中谷武嗣、簗瀬正伸、藤田知之、秦　広樹、瀬口

理、村田欣洋、佐藤琢真、角南春樹、堀　由美子、西岡　宏、和田恭一、植田初江、宮田茂樹、小林順二郎、内藤博昭：わが国における植込型補助人工心臓導入後の心臓移植の現状と今後の展望。第61回日本心臓病学会学術集会、シンポジウム、熊本、2013.9.20-22.　9.21

Ｇ．知的所有権の取得状況

１．特許取得： なし

２．実用新案登録： なし

３．その他研究協力者

梁瀬正伸　国立循環器病研究センター移植部

藤田知之　国立循環器病研究センター心臓外科

堀由美子　国立循環器病研究センター看護部･移植部